

令和7年度
鳥取県立図書館特別資料展

入場
無料

戦後80年 県民の継承のいとなみ

—戦争体験の想起とこれからの伝承—

戦前教科書に載る戦車と戦闘機の挿画（『カズノホン1』昭和19年刊）鳥取県立図書館蔵

戦後80年を迎え、鳥取県でも戦争体験者の高齢化が進む今、戦争を語り継いでいくことの重要性が改めて問われています。

本展では、新聞資料や体験談等の文集・記録をはじめとした地域資料等から体験者の記憶をたどり、戦争の記憶とこれからの伝承活動のヒントとなる取組を紹介します。

会期

令和7年

8月13日（水）～9月23日（火）

休館日／8月14日（木）、8月31日（日）、9月11日（木）

開館時間／【火～金】午前9時～午後7時 【土・日・月・祝日】午前9時～午後5時

会場

鳥取県立図書館 2階 特別資料展示室



詳細はこちら>>



お問合せ先
鳥取県立図書館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101 TEL 0857-26-8155 FAX 0857-22-2996
電子メール toshokan@pref.tottori.lg.jp



戦後80年 県民の継承のいとなみ

—戦争体験の想起とこれからの伝承—

主な展示内容

「戦争」とはなんだろう？

わたしたちが戦後80年を語るとき、戦争の認識は個人差があることに気づきます。戦争について解説した資料や戦争当時に発行された資料などから、戦争について解説します。



『現地報告』(51～55号、昭和16年12月～昭和17年4月)
鳥取県立図書館蔵



『日本海新聞』(昭和16年12月9日付) 鳥取県立図書館蔵

県民が体験した戦争 —体験者の数だけ異なる戦争の姿—

鳥取県出身の水木しげるさんはラバウル戦線の体験を書き記し、また、勤労奉仕に従事した生徒の動員の実態は学校記念誌などから知ることができます。このように、鳥取県の人々の戦争体験を文学作品や文集などに残る記録からたどります。



「第六九六救護班関係綴」
日本赤十字社鳥取県支部蔵



救護班結団式(写真) 日本赤十字社鳥取県支部蔵

これまでの継承のいとなみ —記録化と物語—

人々はそれぞれの戦争体験をどのように残し、伝えようとしてきたのでしょうか。手記や語り部活動、新聞・テレビ報道、慰霊祭などの取組を振り返ります。

これからの伝承 —世代を超えた記憶のつながり—

戦争の記憶を引き継ぎ、次世代に伝えるには、体験者の生の声や思いに触れ、体験者の記憶に思いを寄せ、その意味を考え続けることが必要です。

広島の実験者と非実験者の関わりから生まれた伝承絵画「原爆の絵」の活動や、鳥取県内の児童等が制作した大山口列車空襲の紙芝居など、未来に向けた伝承活動を紹介します。

戦争体験者の手記集
鳥取県立図書館蔵



『大山口列車空襲』の紙芝居
(大山町立中山小学校制作 2013)
大山町立図書館蔵